市民福祉委員会会議録

１．開催年月日

平成３０年１１月１９日　　開会　９時５４分　　閉会　１０時３５分

２．開催場所

委員会室

３．出席委員名

柳　井　一　徳　　柳　原　英　子　　惣　台　己　吉　　三　宅　文　雄

４．欠席委員名

藤　原　浩　司　　簀　戸　利　昭　　森　本　典　夫

５．その他の会議出席者

（１）議　長　　西　田　久　志

（２）事務局職員　　主　　任　吉　原　茂　充

６．傍聴者

報道　１名（中国新聞）

７．発言の概要

委員長（柳井一徳君）　　では、ただいまから市民福祉委員会を開会いたします。

〈議長あいさつ〉

委員長（柳井一徳君）　　本日の議題は、１、行政視察報告についてから２、その他でございます。

〈行政視察報告について〉

〈行政視察報告書の概要について、別紙のとおり決定〉

〈行政視察における各委員の意見・感想を発表、今後の取り組み等について協議〉

〈その他〉

〈なし〉

委員長（柳井一徳君）　　では、以上で市民福祉委員会を終わります。お疲れさまでした。

委員会行政視察報告書

平成３０年１１月３０日提出

井原市議会議長　西　田　久　志　様

報告者　市民福祉委員会

委員長　　柳　井　一　徳

委　員　　柳　原　英　子

委　員　　惣　台　己　吉

委　員　　三　宅　文　雄

委　員　　簀　戸　利　昭

期　　間	平成３０年１１月７日（水）～平成３０年１１月９日（金）
出張先及び担当職員職名・氏名	石川県小松市　議会：本谷徹課長、城丸優子主査 防災安全センター：山本肇センター長 富山県富山市　議会：福原武課長、朝倉雅彦副主幹 障害福祉課：恒川貴志係長 富山県小矢部市わくわく小矢部　職員：松岡和子理事長、今多裕子管理者
出張者氏名	委員：柳井一徳、柳原英子、惣台己吉、三宅文雄、簀戸利昭 執行部：唐木英規健康福祉部次長 議会事務局：吉原茂充
調査項目	石川県小松市　防災対策について 富山県富山市　富山型デイサービスについて 富山県小矢部市わくわく小矢部　富山型デイサービスについて（現地視察）
（概要）別紙のとおり	
（所感）別紙のとおり	

１．報告書は、視察・研修終了後１カ月以内に提出してください。
２．概要、所感については、別紙を添付してください。
３．所感には、１行目の右端に委員名を記載してください。

市民福祉委員会行政視察報告書（概要）

小松市　防災対策について（自主防災組織のステップアップ等）　　Ｎｏ.１

防災訓練ステップアップマニュアルについて

【目的】

自主防災組織の更なるレベルアップに向けて、訓練内容の充実及び訓練実施率の向上を図る

【作成】

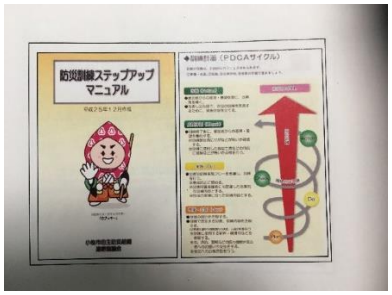
小松市自主防災組織連絡協議会

【内容等】

初動期対応・避難誘導・情報伝達など災害毎に必要な訓練内容を取りまとめ、様々な災害に応じた訓練に活用する内容

【配布先】

地域自主防災会



ＰＤＣＡサイクルで防災力向上を図っている

ランクを判定するための評価票

小松市自主防災組織連絡協議会は市内の自主防災組織（246 組織）の代表と専門知識（防災士会・消防ＯＢなど）を有する者とで構成されている。

各自主防災組織に対し評価制度が設けてあり、10 月から翌年の 9 月末日までの 1 年間を防災対応力･教育訓練等の充実度･町内防災力の貢献度など 23 項目を 160 点満点で評価する。

Ｓランク（125 点以上）　　3 町内

Ａランク（９０～125 点未満）　75 町内

Ｂランク（60～90 点未満）　　112 町内

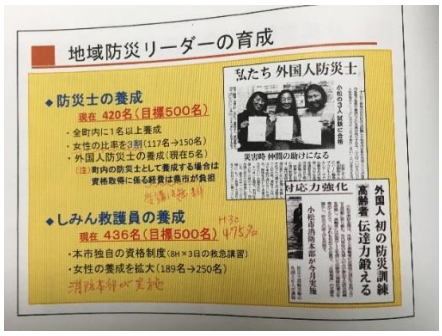
Ｃランク（３５～60 点未満）　50 町内

Ｄランク（35 点未満）　　6 町内　　※平成 29 年度実績

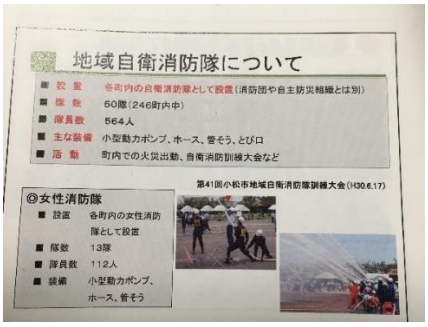
それぞれの町内を消防本部が評価している。

上記の評価状況でＳからＢまでで 77.2%を占めており、Ｂランク以上が８０％以上を目標としている。Ｓランク・Ａランクの上位団体及び優秀な個人は自主防災大会において表彰される。

『防災士』は現在 420 名（うち女性 117 名）おり、各町内に 1 名以上の防災士を養成することが目標で、全体で 500 名（うち女性 150 名）の養成を目標としている。今年度に防災士講習を 13 町内が受講予定であり、残りの 70 町内が防災士不在となっている。また、『しみん救護員』は小松市独自の資格制度で、平成 30 年度で 475 名おり、養成目標を 500 名（うち女性救護員 250 名）としている。



しみん救護員は基礎・応用・終了の講習を
各 8 時間受講することで認定証が交付される。
自主防災組織での救護リーダーとして
活動している。



小松市独自の地域自衛消防隊

自主防災組織への支援として、防災訓練実施による補助金交付制度があり、各組織へ経費の 1/2（限度額）を補助。

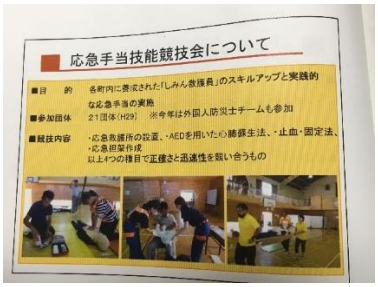
1,000 世帯未満の組織　　20,000 円
1,000 世帯以上の組織　　40,000 円

他には、防災訓練用として防災資機材貸出制度もある。（ＡＥＤ・消火器・土のう作成枠など）

このほか消防団とは別に『地域自衛消防隊』やその中に女性消防隊もあり、町内の初期消火活動に活躍していて、この地域自衛消防隊にも補助金交付制度がある。

消防用具など 6 項目に対して事業費の 1/2（限度額 3～5 万円)、小型動力ポンプＣ１級 25 万円以内、Ｂ３級に 45 万円以内の補助金が交付される。

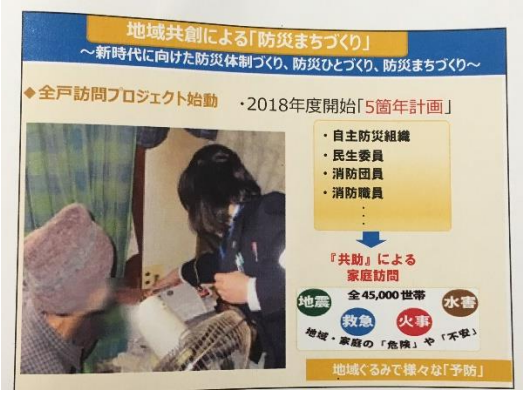
また、訓練も市主催の総合訓練の他に、学校における避難所運営訓練や防火・防災を担う人材育成として小学校の運動会に『レスキューチャレンジ』と題して、土のうづくり・土のう運び・毛布による簡易担架を利用した運搬などを競技として取り入れ、大人から子供まで防災意識を高める努力をしている。



他にも災害に強いまちづくりのために『こども防災教育』の充実を図っており、危険個所を子ども目線で見て歩いて防災マップを作成し、「ぼうさい探検隊マップコンクール」を各小学校で実施している。

また、備蓄品などの運搬・投下装置、スピーカー・高性能カメラの搭載、防滴構造などの高機能を備えた『全天候型高機能ドローン』を防災に役立てようと平成 31 年 2 月に導入予定にしている。

全戸訪問プロジェクトとして、今年度から 5 カ年で市内全 45,000 世帯を各戸巡回して、地震・火事・救急・水害に対する不安の予防や危険の防止を説明している。



富山市　　富山型デイービスについて　　Ｎｏ.１

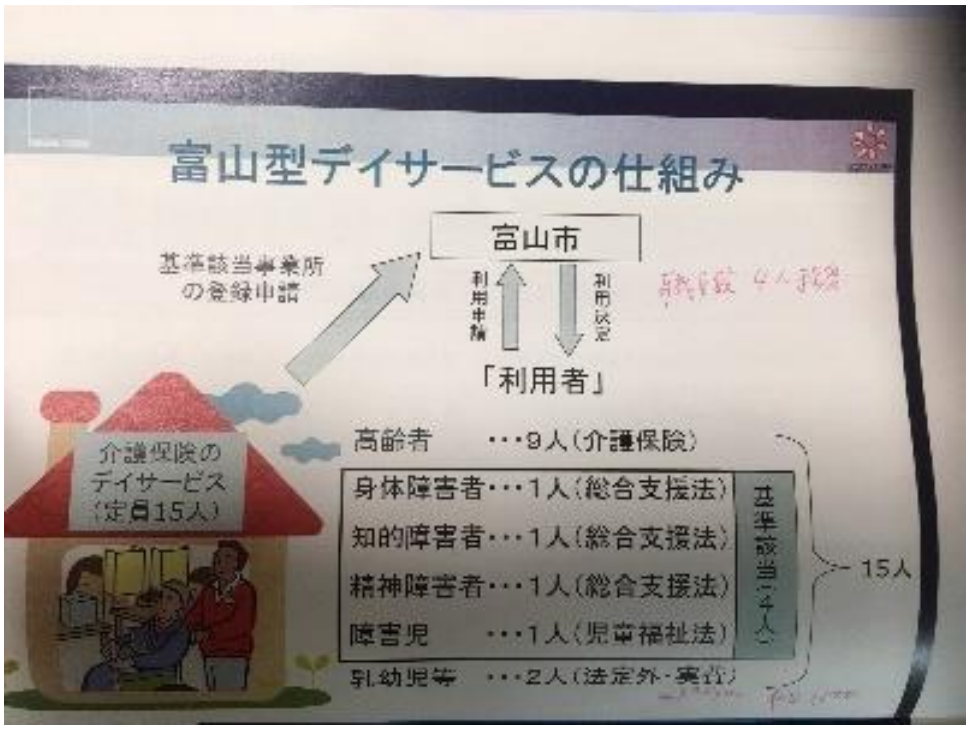
富山型デイサービスができた経過

平成 5 年に富山赤十字病院を退職した 3 人の看護師さんがデイケアハウス『このゆびとーまれ』を開所。ここの看護師で理事長の惣万さんは「子供といっしょに笑ったり、怒ったり、歌をうたったりすることはどんなリハビリよりもよい。子供がいればリハビリなんてする必要がない」との思いから施設を立ち上げた。

富山型デイサービスの特徴

小規模	一般住宅をベースとして利用定員が 15 人程度。 家庭的な雰囲気が保たれている。
多機能	高齢者・障害者（児）・乳幼児など誰でも受け入れ対応する。
地域密着	身近な住宅地の中に立地しており、地域との交流が多い。

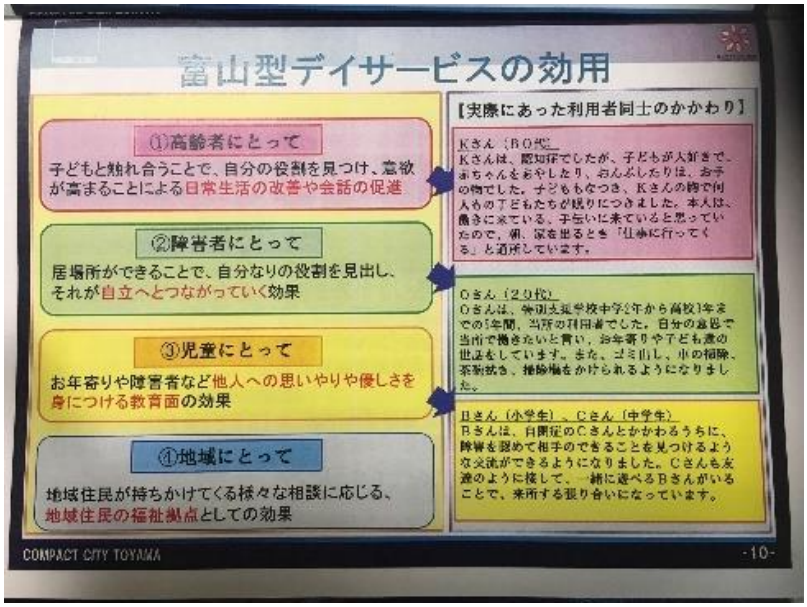
富山型デイサービスの仕組み（介護保険のデイサービスの定員が 15 名の場合の例）



乳幼児は法定外なので実費をいただいている（1 日 2 ,500 円、半日 1 ,500 円）

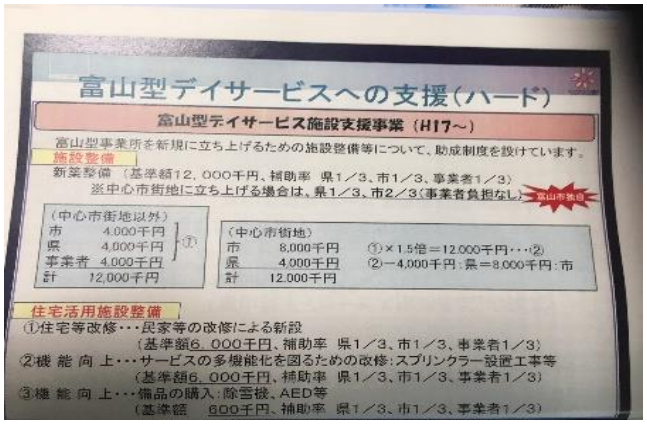
利用者については、各事業所の判断で対象者を決定することができる。

富山型デイサービスの効用について　　Ｎｏ.２



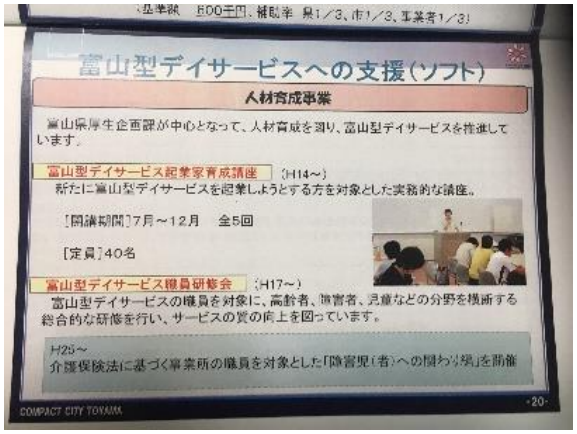
上記の 80 代の方は、子どもが好きで、赤ちゃんをあやしたりしているうち子供もなついて、本人は赤ちゃんをあやすのが仕事と思い通所しているなど、高齢者や障害者、児童にとって、それぞれが自立したり、思いやりや優しさを身につけることができている。また、地域とも良好な関係を築いており、地域住民にとっての福祉拠点として認知されているのが特徴といえる。

富山型デイサービスへの支援（ハード）



ハード面では、平成 17 年から富山型デイサービス施設支援事業が設けられ新規立ち上げの施設整備の助成をしている。新築整備は基準額１,２００万円、県 1/3、市 1/3、事業者 1/3 となっている。また、富山市はコンパクトシティを掲げていることから、中心市街地に立ち上げる場合は県 1/3、市 2/3（事業者負担なし）と富山市独自の助成を設けている。
住宅活用施設整備として、住宅等改修、機能向上のための設備工事や備品購入などに対する補助がある。

富山型デイサービスへの支援（ソフト）　　Ｎｏ.３



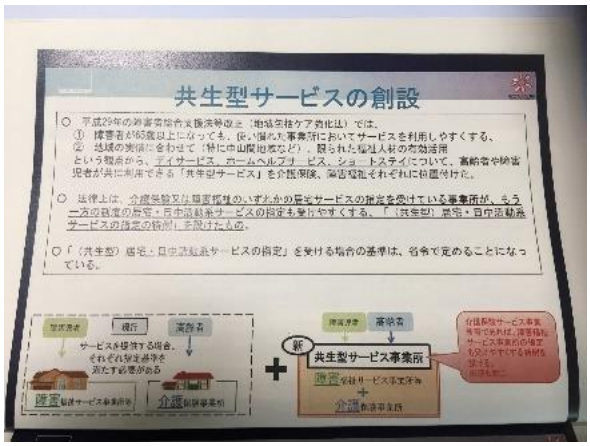
ソフト面では人材育成事業があり、富山県厚生企画課が中心となって人材育成を図り、富山型デイサービスの起業家育成講座や職員研修会などを催し、富山型デイサービスを推進している。

今後の課題

障害福祉サービス報酬の改善があげられる。

基準該当事業所の障害福祉サービス報酬は受け入れる利用者の区分によっては指定事業所より低くなるため、改善を国に要望している。塩崎厚生労働大臣が富山型デイサービス『このゆびとーまれ』を視察した際、「先駆的な取り組みの実態に触れ、大変勉強になった。うまく機能するために何が必要かよく検討する。」と課題解決に向けた考えを示している。

共生型サービスの創設



従来の障害福祉サービス事業所等と介護保険事業所のそれぞれの基準該当事業所を共生させることで、障害者や高齢者がより身近な場所でのサービスが可能となる。

富山型デイサービスは『富山型地域共生福祉』として、地域の共生拠点となるよう行政も支援し現在では全国に広がっている。

小矢部市　特別非営利活動法人『わくわく小矢部』視察　　Ｎｏ.１

富山型デイサービスのさきがけである「このゆびとーまれ」の惣万理事長の講演会を聴き、2002 年 10 月起業家育成講座受講した前理事長が仲間を募り、精神保健福祉士・保育士・社会福祉士の３人で準備を始め、約１年をかけて「わくわく小矢部」を開設。

2004 年２月　ＮＰＯ法人取得

同年４月　わくわく小矢部開設（設立時補助金なし）

	事業形態	定員
開設時	小規模通所介護 基準該当障害福祉サービス	10 名
現　在	地域密着型通所介護 基準該当障害福祉サービス	18 名

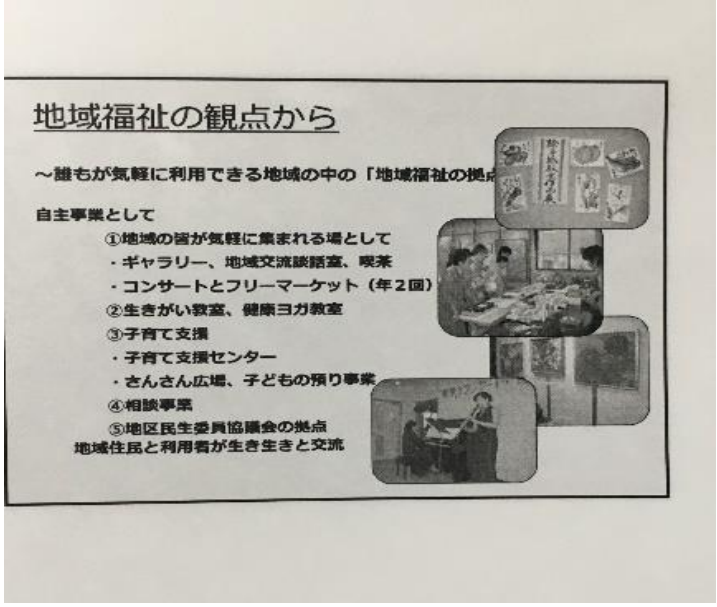
正規職員 10 人　パート職員９人　就労支援Ｂ型１人（派遣）

保有資格　　介護福祉士・精神保健福祉士・社会福祉士・保育士・看護師・理学療法士など

この施設ではスタディメイト経験者（発達障害児等を支援したことのある人）に、夏休みなど学校長期休暇のときに施設に通所する子供の支援を依頼している。

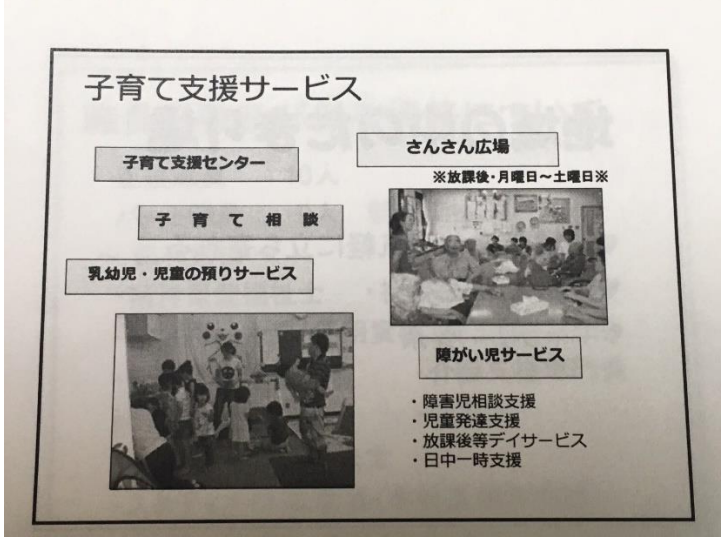
『子育て支援』・『高齢者、障がい者（児）の在宅生活支援』・『一般住民、高齢者、障がい者の生きがい活動支援』・『地域福祉活動』・『福祉に関する相談』などの活動を元病院の一階部分を改修して施設運営している。

地域福祉の観点　　Ｎｏ.２



地域密着型のこの施設は、気軽に立ち寄ることができるよう、談話スペース、ギャラリーや喫茶などがあり地域サロンとしての機能もある。年に 2 回コンサートとフリーマーケットを開いたり、健康ヨガや子育て支援、相談事業などが行われている。

子育て支援サービス



子育て支援センターとして、乳幼児や児童の預かりサービス、さんさん広場として放課後の児童預かり（月曜日～土曜日）・障がい児サービス（相談支援・児童発達支援・放課後等デイサービス・日中一時支援）などを行っている。

事業の風景　　Ｎｏ.３

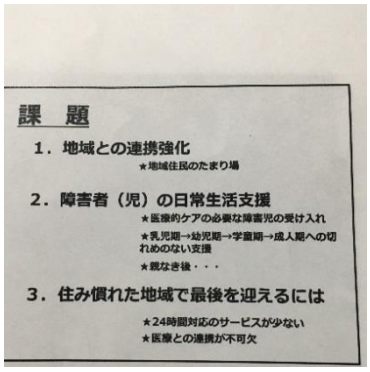
地域住民と施設通所者が気軽に、そして共に生き生きと交流しているのが富山型デイサービスの特徴である。

子どもが喜ぶ風船すくいなどのイベント

施設に職場体験に来た中学生が不登校の中学生と友達になり、その子は学校に通い始めるようになった

地域の高齢者の方々もカラオケなどを楽しんでいる。

今後の課題



課　題

1．地域との連携強化

★地域住民のたまり場

2．障害者（児）の日常生活支援

★医療的ケアの必要な障害児の受け入れ

★乳児期→幼児期→学童期→成人期への切れめのない支援

★就なき後・・・

3．住み慣れた地域で最後を迎えるには

★24時間対応のサービスが少ない

★医療との連携が不可欠

地域との連携強化や障害者（児）の日常生活支援、子育て支援や就学支援のコーディネーターとの協力、人生の終活(住み慣れた地域での最後を迎えるための医療機関との連携)など、多くの人とのかかわりがある分、多くの課題が浮き彫りになってくる。